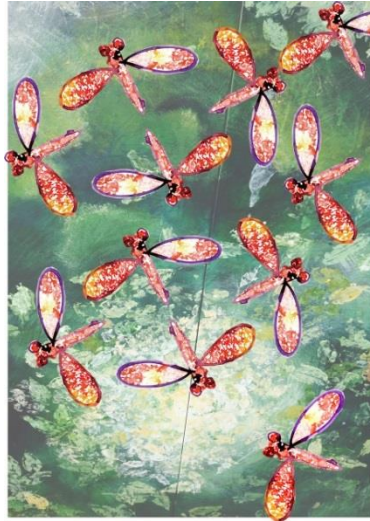


西片結花 <燕市在住>
題名 秋の子たち



コンセプト

秋の赤とんぼをモチーフに制作しています。

互いの生を喜びながら、弥彦の丘で赤とんぼとのひと時を過ごしてみてください。

大きさ 縦 90 × 横 90 のパネル (布) 3・4枚分 高さ 30 重さ 1枚につき 5kg程

素材 スチレンボード・布・接着剤・ペンキ等

活動歴

2014・2015 エックス展・MOVE展・秋を彩る作品展

2016 一陽展入賞・にいがたアートサーカス結展・大和デパート記憶と希望展

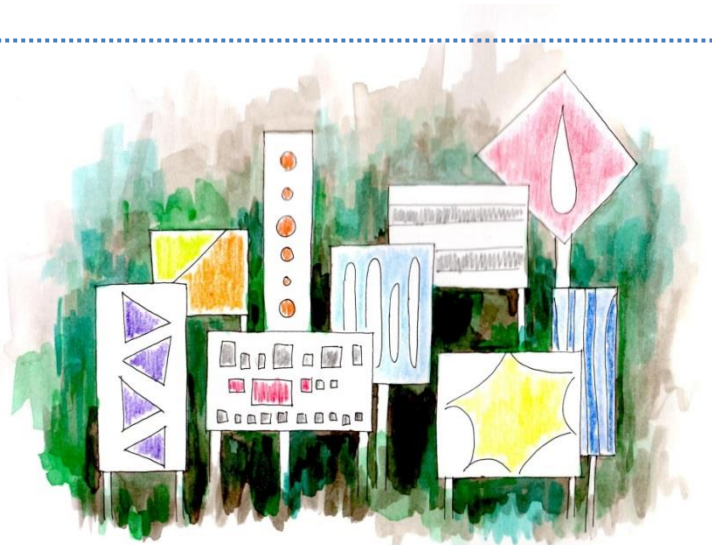
2017 新潟一陽展・古町7番町壁画制作

茅原登喜子 <新潟市在住>

題名 意味はなくても ここに在る

コンセプト

人間の生活のある場所の、いたるところに掲げられた「あれ」は、誰かが不特定の私たちに向けて設置したのですが、時間を経たことで、あるいは何かの手違いで、当初の意図からは離れた存在となってしまっていることがあります。そういう「それ」を見つけるたび、私はしみじみと心惹かれるのですが、もしも、それらがはじめからそのように存在していたら？意味なんて（ありそうで）なかったら？今の（意味を失ったように感じる）状態が意図されていたら？という妄想を、形にしたいと考えています。



大きさ 縦 60 cm × 横 300 cm × 高さ 160 cm 重さ 5

素材 木材・ペンキ・アクリル絵の具

活動歴

新潟市生まれ。新潟市内在住。

ひもや看板をモチーフとした作品を制作。

田中屋画廊（青森）ai gallery（新潟）

エムスタジオ（新潟）などで個展を開催。

鈴木 國男 <相模原市在住>

題名 海の記憶

コンセプト

自然との共生は、私達人類の永遠のテーマである。

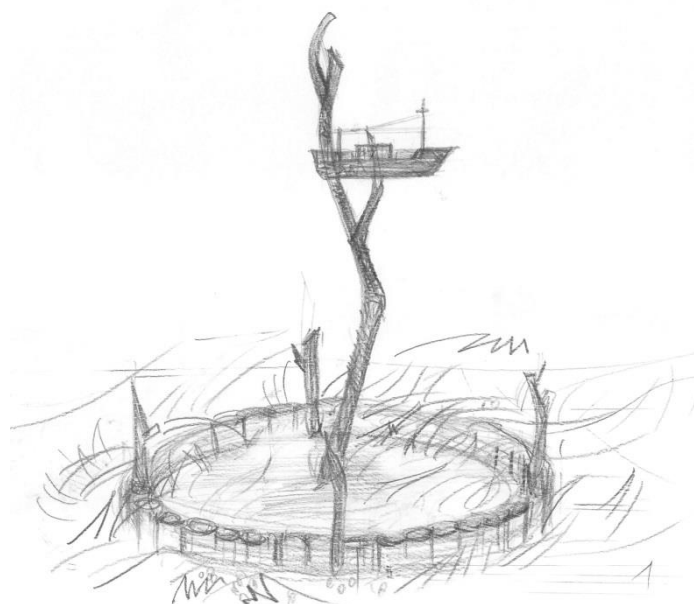
世界で唯一の被爆国である日本は、第五福竜丸の事件や東北の大震災に遭遇する度に、残念ながら問題意識の低さが指摘されてきた。

日常生活の中での取組はもちろん重要であるが、限界もある。そこで、アート作品の存在が重要になってくる。アートによる想像力の喚起は、無限の可能性を内在し、必ず問題解決の糸口となるはずである。

周知の事実であろうが、美の力は、無限である。

大きさ 500cm 500cm 300 cm 10kg

素材 流木、ペットボトル他



活動歴

1960年新潟県燕市生まれ。1987年多摩美術大学大学院日本画科修了 1994年神奈川美術展 美術奨学会賞
2008年全国水墨画展 優秀賞 ポストカードブック『水の線 いろ かたち。』（揺籃社）発行。“水”をテーマに作品を制作するかたわら、本の表紙を描き、ワークショップの企画・運営を行う。音楽（クラシック、ジャズ）など他分野とのコラボも多い。また近年、国内での個展の他、ニューヨークを中心に海外での発表が増えている。

霜鳥健二 <燕市在住>

題名 食卓-Y a h i k o

コンセプト

弥彦にアトリエを構え今年で20年が経った。この間、弥彦の地で出会った人や自然、そして歴史の重みに刺激を受け、そして救われて



きた。それらの出会いを食卓に例え、9回目となる野外展の場で9つの食卓をもって表現した。

大きさ 50×50×125 5kg 9個 全体 700cm*700cm*125cm

素材 鉄・石・木・真鍮・ステンレス

活動歴

2001～2017 弥彦野外アート展（事務局）

1998～2017 宮崎空港国際現代彫刻展（宮崎空港）

2000～2015 「大地の芸術祭」越後妻有アートトリエンナーレ（松代・津南）

2008 「霜鳥健二・内山玉延展」（弥彦の丘美術館）

2016 霜鳥健二彫刻展—鉄—（池田記念美術館）